

、詩篇 1 篇、2 篇

- 幸いな人よ！ (1:1)  
 悪しき者の勧めを 歩まず  
 罪人の道に 立たず  
 おごる者の座に 着かず  
 むしろ 主(ヤハウェ)の 教え(トラー)を 喜びとし (2)  
 昼も夜も その教え(トラー)を 思い巡らす  
 その人は 流れのほとりに植えられた木 (3)  
 時が来ると実を結び  
 その葉は枯れない  
 行なうすべてが 繁栄をもたらす
- 悪しき者は そうではない (4)  
 彼らは 風が飛ばす もみから  
 悪しき者は さばきの前に 立ちおおせない (5)  
 罪人も 正しい者の 集いには  
 主(ヤハウェ)は 正しい者の道を 知っておられる (6)  
 しかし、悪しき者の道は 滅び去る
- なぜ 国々は 騒ぎ立ち (2:1)  
 人々は むなしく 思い巡らし  
 地の王たちは 立ち構え (2)  
 支配者たちは 結束して  
 主(ヤハウェ)と 油注がれた者(メシア)に逆らうのか？  
 「さあ かせを碎き 縄を 切り捨てよう！」と (3)
- 天に座す方は それを笑う (4)  
 主(アドナイ)は 彼らをあざけり  
 燃える怒りで おののかせ (5)  
 怒りをもって 彼らに語る  
 「わたしは わたしの王を 聖なる山シオンに 立てた」 (6)  
 主(ヤハウェ)の 制定(布告)を 宣べよう (7)

- 主は私に言われた  
 「あなたは わたしの子  
 わたしは きょう あなたを生んだ  
 わたしに求めよ (8)  
 国々を あなたに受け継がせ  
 地の果てまで あなたのものとする  
 あなたは鉄の杖で彼らを打ち (9)  
 焼き物のように粉々にする」
- それゆえ今 王たちよ 悟れ (10)  
 地の支配者は 教えを受けよ  
 恐れつつ 主(ヤハウェ)に仕え (11)  
 おののきつつ 喜べ  
 御子に口づけせよ (12)  
 怒りを招き その道で 滅びないために  
 怒りは 今にも燃えようとしている  
 幸いなことよ すべて彼に身を避ける者は

(2019 年 1 月高橋訳改定)

翻訳注：・詩篇 1 篇は「幸いなことよ」で始まり、2 篇も同じ言葉で終わることから、本来ひとつの詩だったと思われる。意味の上でも、このふたつをセットにすると聖書全体の要約が見えてくる。

・1 節の始まりは、原文で、「幸いなことよ。その人は・・・」となっており、それは 3 節の終わりまでかかってくることば。一方、3 節の始まりは、「彼は・・・」ということばで始まっている。

・2 節「その教えを思い巡らす」とは、メデイテーション(黙想)の生活を指す  
・3c は原文で「彼は、行なうことすべてにおいて、繁栄する」となっているが前文からのリズムを生かしてこのように訳した。

・2 篇 1 節 b 「むなしく思い巡らす」と訳したのは、原文で 1 篇 2 節 b 「その教えを思い巡らす」と同じ原語が用いられているため。

・2 篇 4 節の「主」は主人を意味するアドナイ。7 節 a の「主」は主の御名ヤハウェ、7 節 b の「主」は代名詞の「彼」という使い分けがされている。